

実践英文学会会則

第1条 本会は、実践英文学会とする。

第2条 本会の本部は、実践女子大学文学部英文学科研究室におく。

第3条 本会は、実践女子大学英文学科の専任教員、学部学生、大学院生、その他の関係者を会員とする。

第4条 本会は、会員の研究の推進をはかることを目的とする。

第5条 本会は、その目的を達成するために、次の諸事業を行う。

1. 年に一回、総会を開催し、本会に関する諸重要事項を協議する。
2. 会員を中心に、研究発表会を開催する。
3. 英文学科紀要『実践英文学』の編集、刊行を原則として年二回行う。
4. 必要に応じ、随時、講演会を開催する。

第6条 本会に下記の役員をおく。

1. 会長（一名）は本会を代表し、会務を統括する。英文学科主任がこれにあたる。
2. 編集委員二名をおき、委員は紀要の編集その他の実務の遂行にあたる。
3. 委員の任期は一年とする。

付則

1. この改正会則は、2021年1月1日より施行する。

＝ 実践英文学第78号 原稿募集 ＝

『実践英文学』第78号への投稿を募集します。執筆ご希望の方は編集委員までご連絡下さいますよう、よろしくお願い致します。

投稿規定

原稿区分

英米文学・英語学とその関連領域に於ける学術論文とする。

投稿資格者

- 1) 本学専任教職員（学外者との連名の場合を含む）
- 2) 本学非常勤講師（学外者との連名の場合を含む）
- 3) 本学大学院生及び修了生（専任指導教員の指導を必要とする）
- 4) 本学学部生及び卒業生（専任指導教員の指導を必要とする）
- 5) その他、編集委員会で承認された者

執筆及び提出要領

- 1) Microsoft Office Word使用を原則とする。
- 2) 表紙には、(1) 氏名、(2) 連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）、(3) 所属、(4) 論文表題（日本文の場合は英語タイトルも付記）、(5) 原稿の枚数を記すこと。
- 3) 本文は、日本語の場合14,000字程度、英語の場合6,000語程度とする。
- 4) 参考文献の書式は原則として『MLA 英語論文の手引き（最新版）』に準じる。
- 5) プリント・アウトした原稿と、電子記憶媒体の両方を提出すること。

校正

- 1) 執筆者の責任において行うものとする。
- 2) 執筆者校正は、誤記、誤字の修正など最小限にとどめること。
- 3) 目次や冒頭のタイトル・氏名の体裁は、編集委員会が全体の統一を図ることがある。

審査

原稿の採否は査読の上、編集委員会が決定する。

承諾事項

投稿する論文は、編集委員会が認めた機関によって電子化され、コンピュータ・ネットワーク上で公開される。

＝ 編集後記 ＝

『実践英文学』第77号をお届けします。

今年度、我々は実践女子大学英文科創設100周年という大きな節目を迎えました。本号では英文科の100年の歩みを振り返ると同時に、2024年9月29日に本学渋谷キャンパスにて開催された島高行教授による記念講演の記録をまとめた記念特集を収録しています。100年という歴史の重み、その中で変わるものと変わらないもの、そして現在、人文学研究をとりまく状況が必ずしも順風とはいえない時代に文学が—あるいは英文学科が—果たすべき役割について考えさせられる内容となっており、その一端を担うものとして、背筋の伸びる思いです。

また、一般投稿として掲載された2編の論文は、それぞれ本学大学院修了者とその指導教員の手に成るものです。その意味ではこれらの論文も、人文学研究の変わらない部分を象徴している気がするというのは言いすぎでしょうか。これからの100年も、静かに学び合い、思索を重ね合わせる営みを紡いでいくべく、関係者一同努力してまいります。

(SI)

論文執筆者紹介

島 高行	本学教授
猪熊 作巳	本学准教授
松尾 夏海	本学非常勤講師

(敬称略)

論文審査委員

金田 迪子	村上 まどか	柳田 亮吾
-------	--------	-------

編集委員

猪熊 作巳	佐々木 真理	金田 迪子
-------	--------	-------